

平成30年度第2回総合戦略推進アドバイザー懇談会

日時	平成31年3月20日(水) 13時30分～15時20分	
場所	市役所本庁3階 第3会議室	
委員	出席者 (敬称略)	【産】 (株)フジイ代表取締役 金森 薫 【官】 岐阜県女性の活躍支援センター長 原 永子 【学】 中部学院大学短期大学部幼児教育学科教授 杉山 祐子 【金】 東濃信用金庫美濃加茂支店長 渡辺 洋一 横山 幸子 【労】 ハローワーク美濃加茂所長 山下 保
事務局	美濃加茂市経営企画部 部長:渡辺 久司 企画課 課長:佐藤 係長:井戸 成栗、庄司、小畑、山口	

1 開会

2 経営企画部長 あいさつ

3 みのかも女性活躍支援センターについて【資料1で説明】

【事務局説明】

☐9月～2月までの相談件数及び内訳の説明

☐ハローワークの出張相談

- ・これまでに2名が相談を通じて就業に繋がった。
- ・短期間であったのにも関わらず申し込みが多かった。
- ・1人45分の相談で、10月から2名体制をとっている。
- ・ほとんどが小さい子供連れのお母さんからの相談。

☐キャリアアップカフェ

- ・第1タームは、第2第4水曜日開催で、先生との距離が近いため、先生と受講者とのコミュニケーションが多く聞きやすい雰囲気だった。
- ・第2タームは、第2第4水曜日開催で、受講者が過去を振り返り自信を持ってもらった。
- ・第3タームは、18:30～20:00の時間帯に開催し、前回は満員御礼となった。

☐女性のためのマネー講座

- ・ほぼ毎回満員御礼で、キャンセル待ちがあるほど。
- ・受講者の中には、家庭の収支表を出して相談される方もいる。

□マリッジカフェ

- ・講座のように実施する予定だったが、個人申請的に相談したい方がほとんどであった。
- ・参加者の7名のうち半分は男性。
- ・内容を見直していく。

□成果・課題

- ・説明資料の通り

□来年度の方向性

- ・説明資料の通り

【アドバイザー意見】

- ・土曜日は掃除・家のことに時間を使うのではないか。
- ・土曜日は家族と出かける時間が多いのではないか。
- ・昼からの開催は良い。
- ・ハローワーク相談については、来年度も女性職員2名体制で継続する。
- ・本来は、Re:Ola からハローワークへつながってもらいたい。
- ・ターゲットがどこか(誰に来てもらいたい)によって曜日や時間を考える必要がある。
- ・コンセプト「ふらっと」を大切にしてもらいたい。
- ・口コミを大事にしており、広めていく必要がある。
- ・内容が深まってきている。
- ・有効活用の仕方を考えていく必要がある。
- ・自分のことをしっかり考え、先を見据えることが必要。
- ・匠アカデミーから生徒を12名受けている。
- ・母子家庭、外国人の方、双子・三つ子、障がい者といったところの支援が必要である。
→NPO で活動している団体がある。

4 新規の地方創生関連事業について【市・資料 2、国・資料 1-3 で説明】

【事務局】

- ・国、県の主体によるわくわく地方生活実現政策パッケージとして、都市部から移住した人を対象に支援する事業を行う。
- ・事業としては、移住・起業・就業・マッチングの4つあるが、このうち市町村として実施するのは移住支援事業である。
- ・財政負担は、国1/2・都道府県1/4・市町村1/4で、支給額の最大は世帯で100万円となる。
- ・美濃加茂市を実施することとしており、市町村独自の要件は設ける予定はない。

- ・予算は2世帯分確保する予定。
- ・総合戦略に位置付ける必要があり、カミーノのライスタイルのうちワークライフバランスを実現しますに掲載する予定。

5 次期総合戦略の策定に向けて【市・資料 3-1・2、国・資料 1-1・2・策定の進め方で説明】

【事務局】

- ・平成 29 年度時点のアクションプランの達成率は約 66%で、良い方だと考えている。
- ・認知度について、主な対象である 30・40 代は向上している。
- ・人口については、2020 年の目標数値に対して、上回るペースで増えている。
- ・第2期は、第6次総合計画の実行計画であるとともに、女性活躍推進計画も含めたものとして策定する予定。
- ・策定にあたっては、各課事業の抽出・女性活躍推進市民会議による市民提案・アドバイザーによる専門的な提案・助言をもって行う。
- ・策定のポイントとして、事業の考え方は、女性を主ターゲットにした事業であるか、女性の活躍に繋がることが明確な事業であるか、女性の活躍を支援するための環境整備であるか。
- ・女性自身の活躍できる機会・場所を創出と、そのために必要となる周りの環境整備の充実を目指していく。
- ・KPIについては、参加人数や件数といったものを設定する場合には、女性の数値に絞って測定する必要がある。
- ・単に数字をもって測定するのではなく、その事業をやって女性活躍にどのような効果があったかを測定しなければならない。
- ・これまでの 5 つのステージを継承しつつ、地方創生の視点と女性活躍の視点で強化していく。
- ・策定のスケジュールについては、市の予算期である 10 月までに素案を作りたい。
- ・アドバイザー懇談会は、月 1 回に近い回数で前期に集中的に行う予定。

6 意見交換

【事務局】

- ・来年度は産官学金労＋言（メディア）の方1名を加えて進めていく予定
- ・9月の議決事項（来年度の目玉事業については7月くらいには決めておきたい）
- ・来年度の体制について、計画は、企画課で行い、女性活躍の推進市民会議のプロジェクトから出た事業の管理運営は地域振興課となる。
- より一層市民に近いところで行いたいという想いから
- 新規で女性活躍推進係が新設
- ・環境を整えることの必要性を感じている（直接支援・間節的にサポートする）

【アドバイザー】

- ・移住支援に関連して、外国人で家を買われる方などを対象に助成があると良い。
 - 美濃加茂市に来て住んで働いて・・・お祝い金等の補助をしてはどうか。
 - 永住する方には、市としてもサポートしていった方がいい。（定住支援）
- ・働き方が変わってきており、すぐに辞めてしまう。
- ・今の学生は執着心がほとんどない。
- ・若い人たちの感覚が変わってきている。（キャリアとかではない）
- ・保育士をずっと続けている子は少ない。
- ・3年で仕事をやめてしまう。
- ・将来的に一人の給料だけでは生きていけないことを自覚する必要がある。
- ・長い目でビジョンを考えないといけない。
- ・夫婦そろってセミナーを受けてもらう。（生涯年収について）
- どれだけ子どもを育てるのにお金がかかるのかを知らないと続けられない。
- 意見交換の場がすごく必要である。
- ・小さな世界で若者は物事を知っている。
- ・目的も平成の30年の間で大きく変わった。
- ・企業が努力しないとどんどん人材離れをしていく。
- ・生きていくことに焦点を当てるのか、輝くということに焦点を当てるのかによる。

7 閉会

- ・来年度も引き続きアドバイザーをお願いいたします。